

# 川俣町 農業委員会だより

第24号

令和2年3月1日

川俣町農業委員会

川俣町字五百田30

☎566-2111

令和二年度

## 川俣町の農地利用の最適化に 関する施策について

町長に意見書を提出

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故から九年、本町の農業は風評被害や有害鳥獣被害の拡大など、多くの課題を抱えております。さらに昨年十月の台風により、

農地や農作物、農業用施設等も甚大な被害を受け、農業者の暮らしや農業生産活動にも多大な影響を及ぼしています。

本町農業委員会は、この危機的状況を踏まえ、昨年十一月十八日、町に対して令和二年度の農業施策を重点に取り組むよう、意見書を提出しました。

### 意見項目

- 一、台風による農業被害への支援について
- 二、原発事故からの復旧・復興への施策
- 三、継続的施策
  - 一、国内対策等の強化について
  - 二、担い手の育成確保・集落営農推進対策について

三、認定農業者の育成

高齢化する農家を支えている農作業受託者に対し、受託面積により補助金を支給するなど農業所得向上に向けての支援や受託者組織の育成を行うこと。

四、女性農業者への取り組み

鳥獣被害対策の強化について鳥獣害対策及び団体業務を支援する専従職員を確保すること。

六、耕作放棄地対策の実施

七、環境保全対策の取り組みについて

八、農業生産支援対策について  
九、山木屋地区の営農再開の推進について

原子力被災十二市町村農業者支援事業については、事業の長期継続や支援条件の緩和をはかるよう、国や県に働きかけること。

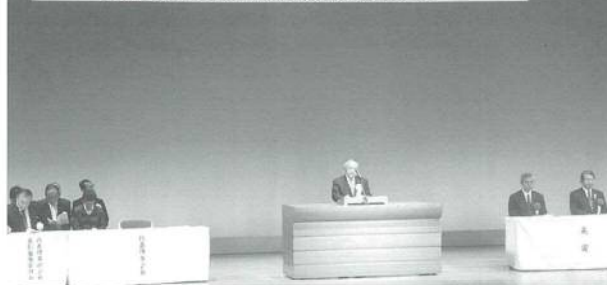
十、農業委員会及び事務局体制について

詳細については、新たに追加した主なもののみ記載してあります。

## 令和元年度 福島県下農業委員会大会

### 令和元年度 福島県下農業委員会大会

集落話し合い運動で地域農業を活性化させよう！



令和元年度福島県下農業委員会大会が昨年十一月十五日福島市の「パルセいいざか」において、県内から約千二百人の農業委員・農地利用最適化推進委員が出席し開催されました。本町からは十八名が参加しました。

はじめに、永年勤続農業委員（十二年以上在任）の表彰があり、本町の佐藤眞一委員が受賞されました。

また、福島大学食農学類長生源寺眞一氏による「現代日本の食料・農業・農村―新潮流と変わらぬ本質―」についての記念講演もありました。大会では、東日本大震災から

らの復旧・復興対策、農業・農村の発展に向けた施策についての「本県農業の発展に向けた要請書」及び「令和二年度県農業施策に関する意見書」の提出が報告されました。

最後に、台風等による被害からの復旧・復興を早急に実施する「自然災害に対する緊急要請について」及び「集落話し合い運動」で地域農業を活性化させるための申し合わせ決議として

一、農地関係法令の適正な執行と見える化について

二、農地等の利用の最適化について

三、農業者年金の加入推進について

四、情報活動について

が読み上げられ満場一致で承認され、全員でがんばろう三唱で閉会しました。

## 福島大学との懇談会

農業委員会では、昨年十一月十二日に昨年四月に福島大学に開設された食農学類の先生方との懇談会を開催しました。懇談会には、学類長の生源寺眞一氏をはじめ九名の先生方が出席され、川俣町の農業復興を目指した取り組みの必要性について、意見交換をしました。

一回目でもあり、お互いの自己紹介などで時間が足りなくなってしまうましたが、地域の農業再生や担い手育成、生産技術開発や川俣産の農産物を使った商品の開発などについて、今後も意見交換を行っていくことを確認して閉会しました。



# 認定農業者との意見交換会を開催



一月十六日、認定農業者の方々との意見交換会を開催しました。町担当者による「令和二年度農業施策に関する意見について」「台風による農地、農業用施設災害復旧事業等について」「人・農地プランについて」の説明があり、それから意見交換会に入りました。このところ、毎年のように鳥獣害対策の話から始まりますが、十二月十五日現在で、八百六十七頭が捕獲されているとのこと、前年の頭数には及ばないまでも、相変わらず凄まじい数となっています。狩猟免許取得から銃所持までに、四十歳以下の方は、最高で五十万円の補助金が交付されるという制度を活用した若い方々の免許取得が増加傾向にあるとのこと、猟

友会としては、益々増加する事を望んでいるそうです。昨年の台風十九号被害からの復旧に関しては、農地の被害箇所だけでも二百二十八件もあり、溜池水路、農道、林道まで含めると四百四十四件にもなります。数字で表わされると、改めて被害の甚大さを思い知らされます。全て同時に復旧出来ないのは理解していても、一刻も早く工事が出来ない、離農という選択をする人が出るのではないかと懸念されます。農業者の暮らしや農業生産活動にも多大な影響を及ぼしていることから、今後も被災農家の支援の拡充に向けた働きかけを行ってみたいと思います。



農業委員会では、昨年九月十七日に水稲の作況調査を実施いたしました。調査方法は、平年作と比較できるよう定めてある定点圃場を中心に十七圃場を調査いたしました。



作柄概況は、全生育期間を通じて概ね天候に恵まれた結果、十アール当たり四五七キロの調査結果となりました。

## 台風十九号による

## 農業被害について

令和元年十月の台風十九号は、記録的な大雨で川俣町全体に甚大な被害を発生させました。住宅、宅地、河川、道路、農地及び農業用施設等に多くの被害が確認されています。

農業委員会では、農業委員及び農地利用最適化推進委員が、各担当地区において、農地及び農業用施設などの被害状況の調査等を行いました。

台風による被害は、農業者の暮らしや農業生産活動にも多大な影響を及ぼしていることから、農業委員会は、町長に対して、十一月十八日に「令和二年度川俣町の農地利用の最適化に関する施策について」意見書を提出し、被災農家

への支援について、平成二十七年の農地被害復旧の補助以上の要望を行いました。今回の農地、農業用施設等の災害復旧事業費補助については、以前より改善された補助となりました。その一方で、被害の大きさに、今年の作付けに復旧が間に合うのかとの農家からの不安の声が多く聞かれます。また、一、高齢による営農再開見直し、二度重なる復旧費の負担、三、集落での水路管理が難しい等

## 編集後記

昨年は、台風十九号により甚大な被害が発生し、今年の水稲・野菜等の作付けに影響が出ると思われます。また、未だに東日本大震災の東京電力福島第一原発事故による風評被害が払拭されず、高齢化・有害鳥獣による被害等などもあり、より耕作放棄地が多くなると懸念されます。

農業委員・農地利用最適化推進委員・行政・JA・関係機関等と連携し、少しでも解消しなければなりません。今年は、昨年のような異常気象などによる被害が発生しない事を願いたいものです。

安田 時雄  
佐藤 吉彦  
高橋 亨  
高橋 忠俊  
村上 源吉

## 令和元年度 水稲作況調査報告